

発行

京都教育大学同窓会

発行責任者

会長 高向 健次

# 京都教育大学 同窓会だより



事務局

〒612-8522

京都市伏見区深草藤森町1  
京都教育大学内

TEL 075-644-8353

FAX

メールアドレス  
dosokai@kyokyo-u.ac.jp

## 支部の総会に参加して

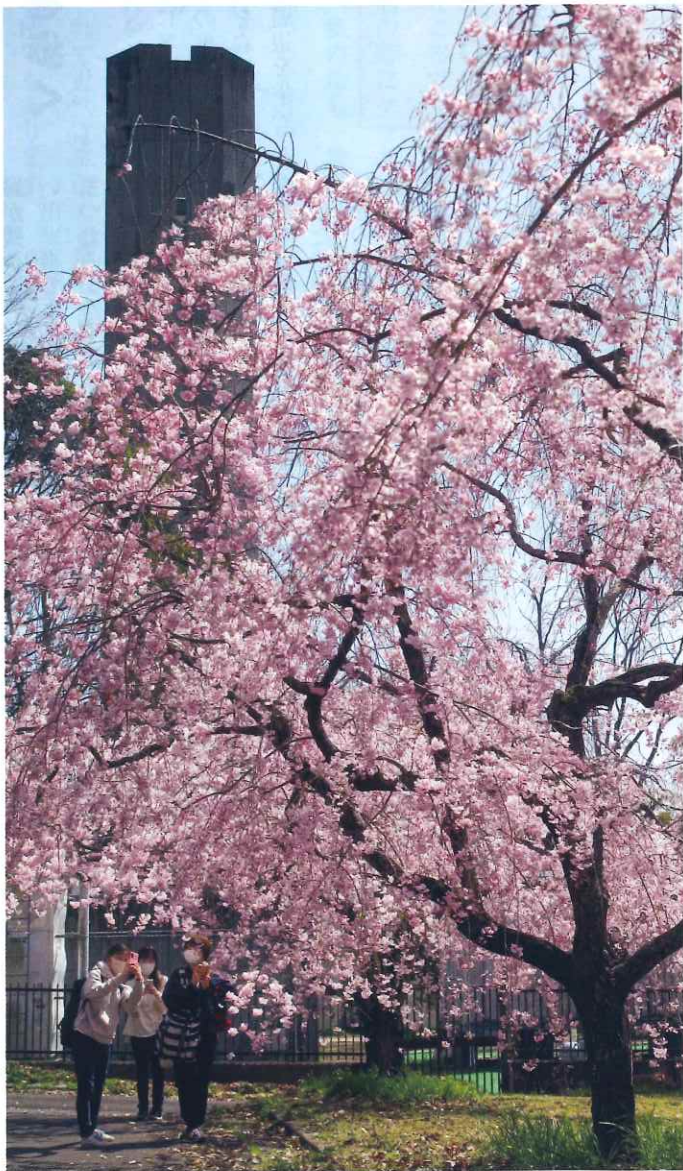
京都教育大学同窓会副会長 大越 房数



今年こそ、いい年になりますように願っていた矢先、大きな地震・津波が北陸地方を襲いました。京都から近い石川県には、多くの同窓生がおられるでしょうし、避難所となった学校に勤務されている方もおられるのではないかと思います。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を願っています。さて、昨年度、福知山支部の総会に参加させて頂く機会を与え

て頂きました。福知山支部には、学生時代に深草寮で同じ部屋で過ごした友人もおり、久しぶりに会えるのを楽しみにしていたのですが、他用で今年は参加できないと連絡をうけました。しかし、案内してくださった役員の方が、部活動の後輩であることがわかり、人とのつながりを改めて感じました。議事後は、太田耕人学長に「京都教育大学の未来を展望して」と題しての講演をしていただきました。その後は三年ぶりの懇親会。師範学校を卒業されている大先輩から、現職の方まで世代を超えて楽しく交流し、最後は、大先輩のアカordeイオンの伴奏で懐かしい曲をみんなで歌い、締めは宣揚歌。福知山支部の暖かさを感じ、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

いよいよ、二年後には大学創立一五〇周年を迎えます。同窓生のつながりをいっそう深め創立一五〇周年を祝いたいと考えますので、「ワン・ツー運動」にご協力いただき、総会を始めとした同窓会の事業に、参加いただけますようお願い致します。



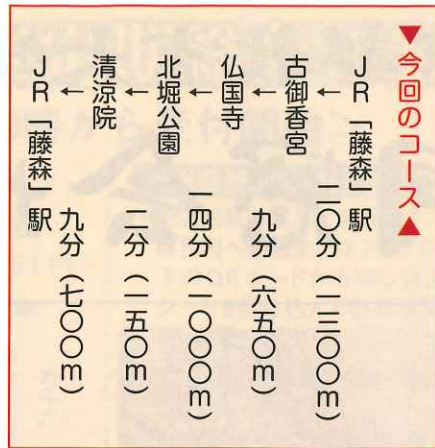
### 今号の内容

- ① 副会長挨拶
- ② 教育大の地元を歩く
- ③ 学び舎
- ④ 紫郊体育会の活動
- ⑤ キャンパスライフ
- ⑥ 同窓会入会のお誘い
- ⑦ 創作
- ⑧ アートフォーラムの活動
- ⑨ 頑張ってます
- ⑩ 写真展
- ⑪ いいとも講演会
- ⑫ 随想
- ⑬ 特別寄稿
- ⑭ 同窓会行事・編集後記
- ⑮
- ⑯
- ⑰

# 教育大学の地元を歩く

## 【八科峠】 やしなうつけ

教育大学がある伏見を中心に名所や旧跡を紹介していく「教育大学の地元を歩く」ですが、今回は墨染通りを六地藏方面に抜ける際に越える八科峠周辺を歩いてきました。



QRコードを読み取る  
と今回のコースの地図  
を見てもらえます。

今年元日から能登地方を中心に大きな地震があったというニュースに心を痛める年初となりました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。伏見も豊臣秀吉の頃に大きな地震があり、築城間もない伏見城が崩壊したという記

録が残っています。とても人ごとではない出来事です。八科峠周辺にも伏見城にまつわる旧跡を見ることができました。

### ■古御香宮

豊臣秀吉は伏見城築城の際、現在の場所にあった御香宮を伏見城の鬼門に当たる良の方角の守護神としてこの地に移しました。徳川家康が天下を取ると御香宮は元の場所に戻されます。社殿も江戸末期に大破したようですが、その後再建され現在に至っています。今では「峠」一帯の氏神様として信仰を集めています。



古御香宮

古御香宮の右隣には、「桓武天皇陵墓参考地」と呼ばれる森があります。応神・仁徳陵をしのぐ規模であったとされる桓武天皇陵は現在、今の伏見桃山城の西隣にあります。一説にはこの古御香宮の

地にあったとも言われています。秀吉がここに神社を祀ったのは、桓武天皇陵を鎮護するためだったという説も伝えられています。今に至っても元々の桓武天皇陵があった場所は確定されていないのです。桓武天皇陵を巡る謎は、次の仏国寺へと続きます。

### ■仏国寺

古御香宮前から墨染通りの坂を更に上がると六地藏方面の視界が開けてくる峠に至ります。ここが八科峠です。古人も長い坂を上って来たこの峠で一休みしたことでしょう。峠には「右京道・左六地藏」と彫られた石標が建っています。

八科峠の東にあるのが仏国寺です。仏国寺は黄檗宗萬福寺に属するお寺です。隠元禪師に招かれて中国の福清から来られた高泉和尚がそれまでこの地にあった永光寺というお寺を復興して仏国寺と名付けたそうです。そのような由緒があるからでしょうか、仏国寺の墓地には中国の方の名を記したお墓が多数見受けられます。その墓地の一角には、小堀遠州のお墓もあります。小堀遠州は数々の著名な庭園造りで有名ですが、本来は徳川幕府の官僚で、晩年は伏見奉行をしていました。六地藏にあった屋敷で没していることから仏国寺の前身の永光寺に葬られたのではないかと言われています。なお大徳寺の孤篷庵にも小堀遠州のお墓があります。

さて桓武天皇陵を巡る謎です。仏国寺の鐘楼のそばに「謎の石棺」とも呼ばれる



仏国寺

る石棺が置かれています。この石棺は大正時代に、広大な桓武天皇陵があったと想定される地域の中でも、この仏国寺の境内から発掘されたものです。中には火葬骨を入れた壺が入っていたといいますが、今は行方知れずです。古御香宮の社殿前の大きな踏み石は、この石棺の台座だったそうです。この石棺が桓武天皇のものだとする歴史家もいるようですが、疑問を唱える人が多いのも事実です。秀吉は伏見城築城の際に桓武天皇陵の領域を侵食したということですから、古御香宮には桓武天皇陵の鎮護だけでなく鎮魂の役割も担わせようという思いがあったのかも知れません。いずれにせよ、この地が本来の桓武天皇陵の有力候補地であることに違いはありません。

北堀公園

八科峠から墨染通りを少し戻ると、後の福岡藩主となる黒田長政の下屋敷跡を考地と書かれた説明板が立っています。そこから西に向かって伸びている上板橋通りを下っていくと左手に北堀公園の緑が見えてきます。



北堀公園

北堀公園はその名の通り伏見城の北側にあった外堀の遺構が整備され、平成五年（一九九三年）に北堀公園として市民に開放されました。テニスコートに体育館、子どもの遊び場にウォーキングコースなど親しく利用された方もおられるのではないのでしょうか。  
公園の一部には、ここがお堀であったことを彷彿とさせる池が残っています。往年の北堀は、深さ一五メートル、最大幅一五〇メートルもあったそうです。こ

れは江戸城最大のお堀に匹敵する大きさです。これほどの堀を人の手で掘ったというのですから驚きです。

清涼院

北堀公園の体育館がある入口から道を挟んで向かい側にあるのが浄土宗の尼寺清涼院です。その名に違わず手入れの行き届いた清涼感のある境内です。



清涼院

秀吉の死後、伏見城に入った徳川家康は、石清水八幡宮の神官の娘「お亀」を側室に迎え、伏見城の一画で御花岡山荘と呼ばれた場所に庵を建てて住まいさせます。お亀の方は、家康が関ヶ原合戦に勝利した慶長五年（一六〇〇年）、家康の第九子となる後の徳川義直（幼名五郎太丸）を出産します。義直は成長して徳川御三家筆頭格である尾張徳川家の藩祖となった人物です。ちなみに清涼院のある

町名「五郎太町」は、この徳川義直の幼名五郎太丸から来ています。

なお、お亀の方が住まいた庵はその後、萬福寺の僧清涼観了が清涼庵と改めて隠居住まいし、安永七年（一七七八年）からは浄土宗の尼寺となりました。

桃陽総合支援学校

八科峠の石標から東の道を行くと京都市立桃陽総合支援学校があります。眺望に恵まれたこの地には学校ができる以前「桃陽園」という貸別荘があり、当時滞在していた津田青楓という画家の誘いでかの夏目漱石も訪れたことがあるそうです。今回は、桃陽総合支援学校の石原廣保校長先生にお話を伺ってきました。

石原校長先生は、昭和六二年（一九八七年）に第二社会科学科を卒業されました。専攻は西洋史だったそうで、クラブはハンドボール部に入っておられました。ハンドボール部は当時、度々一部リーグで活躍するなどその実力を誇っていました。石原先生はゴールキーパーなども経験し、インカレにも出場されました。そのハンドボール部にも負けない思い出が学生寮での経験でした。毎年寮生がグループに分かれ、手作りの台本で演劇を披露したことなどが、今でも楽しい思い出として残っているそうです。  
桃陽総合支援学校は、隣接する桃陽病院から通学する子どもたちに対し、「命、感謝、未来を大切に生きようとする子ども育成」を教育目標に取組を進められています。



桃陽総合支援学校

若い頃より特別支援教育に造詣が深かった石原先生は、四年前に桃陽総合支援学校の校長先生になられました。しかし着任当時はまさにコロナ禍が始まった頃で、学校に子どもの姿はありませんでした。やっと落ち着きを見せ始めた昨年から病弱の子どもの支援はいかにあるべきかという研究発表もできるようなになり、石原先生の思いが形となって表れてきています。また入院中の高校生の支援にも乗り出しておられます。高等部がないため、オンラインを用いて在籍校の先生の指導を受けられるようにと仲介をされ、大学合格者も出るようになってきたとのことでした。

ここにも、教育現場で活躍されている教育大学の同窓がおられました。

\*勤務校は令和六年三月現在

# 学び舎

## 大学の今

### 教科研究開発高度化系の専門実習について

連合教職実践研究科教科研究開発高度化系 佐藤 卓也



ご存じのように、令和四年度から開設された新教職大学院では、従来の連合教職大学院を引き継ぐ学校臨床力高度化系に加え、教科研究開発高度化系（以後、教科系）が設置されました。

教科系にとっては、従来の教育学研究科から新たに教職大学院に改組したことに伴い、教職大学院のカリキュラムに設置すべき、例えば五領域の共通科目やより実践的なトータル十週間の専門実習などへの移行と創出が、新たな挑戦の始まりとなりました。

二年がたち、初めての修了生を送り出す今、教科系の特色は多くありますが、紙面の都合で、本稿では、教科系の十週間の専門実習について述べようと思います。

教科系では、この専門実習を「教科研究専門実習」と名付け、連携協力校園（附属学校園と京都府・市の連携協力校園）で実習を行っています。基本的には、一年次に教科研究専門実習Ⅰとして、附属学校園で三週間の実習を

行い、二年次の四月当初から教科研究専門実習Ⅱとして、連携協力校園で七週間の実習を加え、トータル十週間の実習に臨みます。

教科研究専門実習のねらいは、授業（保育）を展開する力を中心とした実践的指導力の向上であり、重点として①こどもを深く理解する力②授業（保育）をデザインする力③省察する力を柱としています。

省察や研究授業、修了論文のためのリサーチなど、実習での学びは数多くありますが、連携協力校園の先生方には、教科指導だけでなく、校務全般の様々な仕事に対して、仲間として関わらせていただくことを特にお願ひしています。実践力向上だけでなく、教科指導が他の教育活動と深くつながっていることを実感でき、学校全体のカリキュラムについて考える機会となると考えているからです。

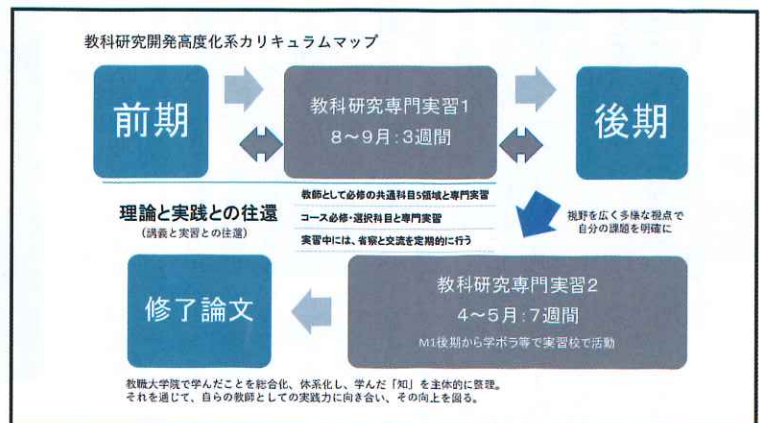
教科研究専門実習Ⅰは、八・九月に行うので、附属校園では、学部生の教育実習とほぼ重なり、担当の先生方の負担も大きく、また、院生も授業の機会が少ないという状況があります。大学の前・後期の間を活用するので重なる

のですが、院生たちは学部生の相談に乗ったり彼らと授業研究を共にしたりなどしながら、自身の教科授業に加え、空いている時間を活用し、教育実習ではあまり経験できなかった校務分掌等に懸命に取り組む姿が見られます。この期間はメリットもあります。前期で学んだことを実習で自分なりの観察や実践をすることができ、後期の授業で実習での経験をもとに学修が深められていきます。このようなことを図にしたものが下図です。

教科研究専門実習Ⅱは、二年次の四月初めから七週間行います。開設初年度は二年次の院生がいないので令和五年度がはじめての実習となりました。

連携協力校園には、最初の職員会議から参加させてほしいとお願いしました。それぞれの事情もある中で、意図をご理解いただき早い時期からの実習が実現しています。一緒に働く「同僚」（言い過ぎかもしれませんが）として、会議や打合せに参加し共に始業式前の準備（名前のシール貼りや机の移動、掲示物、学級開きはどしようかなどなど）を行うことが、後々の大きな糧になると期待しています。

はじめての教科研究専門実習Ⅱでしたが、一期生たちの頑張りにより学校園の先生方からは、おおむね高い評価をいただき次のようなお声が印象的でした。



・教育実習生とは違う立ち位置で、教員になるといふ目的が明確であり自分の専門性を活かしたいという意気込みが感じられた。

・研究授業や協議会は、こちらの教員にとっても刺激になりありがたかった。第一期生は、もうすぐ修了です（令和六年一月に書いています）。彼らの二年間の学びや専門実習の経験が、これからの教育実践の中でしなやかに活き続けることを願っています。

# キャンパスライフ

## 天文同好会すぴか

理科領域専攻三回生 山下 瑞貴

## 男子バスケットボール部

体育領域専攻四回生 吉川 鷹吏

天文同好会すぴかは一回生から四回生までの約二〇名で活動しています。活動日は不定期ですが、月に約二回、四限目終了後の一七時過ぎから一九時ごろまでA棟の屋上にて観望会を行っています。メンバーと日程をすり合わせて多くの方が来ることのできる日に活動を行うため、忙しい大学生活やバイト、部活動などとの両立も容易にできます。参加している領域も様々であり、普段関わることの少ない領域や学年の人たちとゆるく話をしながら、季節の星や月を眺めています。

新型コロナウイルスの感染が拡大する以前は長期休暇中に合宿を行っていました。完全に元通りとはいかずとも五類に移行した今、長期休暇中や休日に少し遠出をし空を眺めるのも良いと考えています。今年度の夏季休業には大学周辺にある科学館内部のプラネタリウム鑑賞を行いました。

私たち男子バスケットボール部は、「リーグ優勝」を新たな目標に掲げ、日々練習に取り組んでいます。部員数こそ多くはありませんが、よく言えば少数精鋭のチームです。この特性が濃い練習を生み、部員同士での切磋琢磨、個々の実力向上に繋がっています。試合でも、個々が出場時間が長いことに責任を感じることで、再び練習への熱意に帰着しています。目標を達成するために、これまでのチームには無かった新たな戦術の練習・研究を行ったり、筋力トレーニングに取り組みんだりしています。

私自身、主将として「集団の中の自分の在り方」を考えることが多くなりました。チームを牽引する立場ではありますが、プレイヤーとしての未熟さを日々感じています。そんな私がチームに何ができるのか。まだまだ手探りの状態ではありますが、「自責利他」をモットーとして主将を務めさせていただいております。これまでの先輩方をロールモデルとし、飽くことなく最後まで走り抜くようと思っています。

最後の学生バスケットボールを通して、部員全員が技能以外の面でも成長できるような、多くの人に応援してもらえるようなチームを目指して今後も精進してまいります。

末筆ではございますが、日々の活動ができているのは先生をはじめとしたOB・OGの皆様の多大なるサポートのおかげです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、成長し続ける我が部の活躍にご期待していただければ幸いです。





# キャンパスライフ



## 学生会員

### 関わりを通して

発達障害教育専攻四回生 下林 大斗



私は特別支援学校の教員を目指して大学に入学してきました。そして、現在まで障害のある人との関わりの経験を積んできました。

一つは、放課後等デイサービスのアルバイトです。一人ひとり好きな遊びや個性というのも異なるからこそ、一人ひとりのことをしっかりと把握し関わっていくことが大切ということを学びました。

もう一つは、教育実習や教師塾の現地研修、学生ボランティアを通しての特別支援学校での児童生徒との関わりです。先生方の関わり方を見たり、実際に関わったりする中で、

児童生徒の意思や感情を感じ取る観察力というのが必要不可欠であると感じました。また、児童生徒の自立に向けて、児童生徒が自分の意思を伝えるためのコミュニケーションの方法を教員は模索していくということが大切であるということ学びました。

そのような障害のある人との関わりを通して様々なことを学び、高校の時点での漠然とした特別支援学校の教員になりたいという思いは、障害のある人が将来笑って前向きに生きていけるように一緒に頑張っていきたい、だから特別支援学校の教員になりたいという明確な志に変わっていきました。

大学生活も残り一年となりました。自分自身成長した部分もありますが、教員を目指す上でまだまだ至らない点ばかりです。だからこそ、残り一年、挑戦することを恐れずに頑張っていきたいと思います。

## ▶京都教育大学創立150周年(令和8年)に向けた会員増の取組にご協力を

同窓会活動は新型コロナの感染症法上の位置づけが5類に緩和されて以降、会員相互の親睦を図る様々な取組が活発化しています。また、8年前から導入された「入学時入会制」による学生会員の「あったかトークショップ」をはじめとする取組への参加もみられますし、「写真展」や「いいとも講演会」にも卒業生会員とともに参加していただいています。

ところで、会員の皆様から頂いた会費は、同窓会の各活動はもちろん、学生への奨学金や新入生歓迎会、学園祭等の支援にも活用させていただいています。このような活動をより充実させるためには、会員数の増加が欠かせません。同窓会では、これまでも「ワン・ツー運動(一人の会員が未加入の二人以上の卒業生に声をかけて会員を増やしていく運動)」に取り組んできました。加えて卒業生の方々が組織されている体育会や各学科同窓会等への会員増の働きかけを強化するなど、入会促進も行っていきたいと思っております。同窓会の活動内容や入会届などについては、同窓会HPでご確認ください。また、卒業後の同期会開催や支部活動を通して、入学時に入会した会員の10年後の再入会手続きへの声掛けも行っていきたいと思っております。

同窓会ではこれからも、横のつながり、縦のつながりを大切にしていきたいと思いますので、ぜひ会員増の取組にご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



同窓会HP



事務局宛メール

## 「聞く」ことの大切さ



令和3年  
教育学部音楽領域専攻卒

丸尾 瑳弥香

あっという間に月日は流れ、小学校教員として3年目になりました。今年度は5年生の担任をしており、子どもたちと充実した日々を過ごしています。

私が、教員として大切にしていることは「聞く」ということです。「聞く」には、様々な意味が含まれています。一つは、子どもたちの話をしっかりと「聞く」ことです。子どもたちは、色々な場面で先生に話をしにきます。分からないことがあったとき、何か楽しいことがあったとき、悩みを相談したいとき。そのようなとき、子どもたちの話を真剣に聞いて、寄り添ったり時にはこちらから話をしたりなど、子どもたちとの関わり方を大切にしています。そして、聞くとは、相手を大切にすることということでもあります。私自身が子どもたちを大切にするとともに、子どもたちにも傾聴の大切さを伝えています。

二つ目は、教職員に「聞く」ということです。教員として過ごす中で、楽しいこともあれば、時には悩むこともあります。そういったときに、周りの教職員の方々に相談をしています。相談をすると、いつもたくさん温かい言葉をかけていただきました。相談できる環境、そして相談にのってくださる教職員の方々の支えがあり、つらいことがあっても乗り越えることができました。私も、周りの人の支えになれるような存在になっていきたいと思っています。

(京都市立朱雀第一小学校 勤務)

## 日々心がけていること



令和2年  
発達障害教育学科卒

東谷 隆誠

京都教育大学を卒業して、5年の月日が流れました。この春で、大学で過ごした時間よりも教員として過ごした時間のほうが長くなります。怒涛の日々ですが、周りの先生方や子どもたちに支えられながら元気に過ごしています。

さて、今後の抱負ということですが教員生活を送るうえで少しずつ自分の課題が見えてくるようになりました。教員として過ごしていると、児童や生徒に対して指導する必要がある場面に直面すると思います。その際に、指導の方法として様々であると思いますが「怒る」という手法を取らないようにするという意識に取り組んでいきたいと考えています。私のいう「怒る」というのは、児童のため、生徒のためといって、実際には感情的になって大きな声で怒鳴りつけたり、相手を納得させる努力をせず怖い顔をして威圧したりして、子どもたちに言うことを聞かせようとするなどが当てはまります。もちろん、そんな方法では子どもたちはよい方向に変わっていきはしないし、大人も子どもも疲れてしまって何一ついいことはありません。しかし、その場をしのぐためには楽な方法でもあります。そんな「怒る」を一切排除して、例えば「叱る」だとか「諭す」といった方法を取っていきたいと考えています。その違いとしては、何を求めてほしいのか、どうして話をしているのかといった点を、子どもたちに納得してもらおうといった所を大切にしたいのです。大人の指導に対して子どもたちが納得をして、適切な信頼関係を築き上げていくといった姿を目指して、今後も頑張っていきたいです。

(京都市立呉竹総合支援学校 勤務)

頑張っています

# 令和6年度定期総会のご案内

## <午前10時から受付開始>

と き 令和6年7月7日(日)  
 ところ ホテルオークラ京都 (河原町御池)  
 4階 晩雲の間 ☎(075)211-5111  
 交通 地下鉄東西線の「市役所前駅」下車  
 地下連絡通路からホテルへ  
 会 費 10,000円(受付でいただきます)  
 内 容 10時00分～ 受付  
 11時00分 総会開会  
 12時30分～15時30分 懇親会

### ☆総会参加の申込方法

- ・申込用紙を使用する場合は、必要事項を記入の上、事務局へ郵送またはファックスにてお送りください。
- ・下のQRコードから申し込まれる場合は、申込みシートを読み込んで必要事項を記入し、送信(事務局へ)してください。

TEL・FAX (075) 644-8353  
 Eメール  
 dosokai@kyokyo-u.ac.jp



※申込締切は、令和6年6月21日(金)までに個人または、同期会、学科(専攻)、ゼミ、クラブ、職域等グループでお申込みください。

11時開会です

## 第25回写真展のご案内

開催日時: 令和6年11月8日(金)～11日(月) 10時～16時 (11日は13時まで)

京教大の学園祭(藤陵祭)の実施日に合わせて企画

開催場所: 京都教育大学附属図書館 1階企画展示室(予定)

### —— 作品募集要項 ——

- ①作品出品資格 京教大関係者・写友(一般写真愛好家)
- ②出品作品 一人2点以内(写題は自由)\*撮影年月日と天地が判るように裏に表示  
四つ切り(ワイド版にしないこと)またはA4版、額は当方で用意します。
- ③申し込みと問い合わせ先
  - ・出展の申し込みは、10月18日(金)までに、申し込み葉書をお願いします。
  - ・申し込み葉書が必要な方は、同窓会事務局までご連絡ください。
  - ・京都教育大学同窓会事務局  
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel・Fax 075-644-8353
- ④勉強会 11月11日(月) 13時～15時 e-mail dosokai@kyokyo-u.ac.jp
  - ・場所 写真展会場 講師: 藤井晶夫氏(日本国際写真連盟会長) 予定
- ⑤作品の送付及び返却
  - ・送付日 11月1日(金)までに、同窓会事務局に持参、郵送、宅配をお願いします。
  - ・作品を直接事務局へ持参の場合は、あらかじめ事務局へお電話をください。
  - ・返却日 11月11日(月)勉強会終了後お持ち帰りいただくか、後日宅配便にて返送します。



## 令和6年度「いいとも講演会」

令和6年11月9日(土) 13:30～

演題「子どもの生活と音楽」～大人もリズムに乗って楽しもう～

講師: 京都教育大学幼児教育科 平井 恭子教授



## 編集後記

今年も、年明けから能登半島地震や飛行機事故など心の痛む災害や事故が起こりました。被災された皆様や事故に遭われた皆様へ心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたします。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、コロナも五類に移行して、同窓会の行事もほぼ元に戻り、藤陵祭の写真展では、出品数や鑑賞者数が昨年の倍増と嬉しいお知らせもあります。コロナ禍で味わった日常が日常でなくなる辛さを忘れることなく、一日一日を感謝して過ごしていきたいと思えます。

今号も早く執筆いただきました皆様には心より感謝申し上げます。本学の新しい取組を知ることができ、多方面にわたる卒業生の皆様のご活躍には尊敬と憧憬の念を抱きます。木代先生の作品からは平和を希求される思いが強く伝わってきます。また、現役学生の皆様の奮闘には、思わずエールを送りたくります。

「同窓会だより」を通して皆様方との絆を更に広げ深めることができましたら幸いです。ホームページもぜひご覧ください。今後も同窓会がますます発展いたしますようご協力よろしく願っています。

### 《編集委員》

- 走井 徳彦 山本 早苗  
 中東 朋子 綿越 貴久  
 谷 早苗 飯田 一輝